



満開のシャクナゲを楽しむ参加者

に協力したいと考えています。また、郷土の森の「保護、管理及び利用計画」に沿って、つるぎ町と連携して歩道や標識類の整備などをを行うこととされています。

高周囲八二cm、推定樹齡三九〇年のシャクナゲの大きな木がありますが、この木を含めて、今年にはシャクナゲの花の数が多く、シャクナゲ群生地はまるでピンクのドームのようでした。昼食後、健脚組は、津志嶽山頂まで一時間以上をかけて往復しましたが、足に自信の無い参加者は、シャクナゲを眺めたり、カメラに納めたりと、心ゆくまで

剣山クリーン

ハイクに参加

〈徳島森林管理署〉

六月三日、恒例の剣山クリーンハイクが実施され、当署も参加しました。

クリーンハイクは、西日本第二の高峰である、剣山でもゴミ問題が顕在化したことから、徳島県勤労者山岳連盟が呼びかけて実施しているもので、今回で三回目を迎えました。剣山の西斜面が国有林であり、当署は、クリーンハイクを後援している剣山自然休養林等保護管理協議会のメンバーでもあることから、近



剣山西島駅(リフト)周辺で樹木ガード設置の様子

年は欠かさず参加するようになっていきます。今回は関係する小川、池田の森林官を含め、当署から五名が参加しました。

剣山周辺のゴミは、クリーンハイクなどの取組によって減少していることから、今回は、新たにつるぎ町側の夫婦池周辺でのゴミ回収及び見ノ越登山道周辺での樹木ガード設置を行う

こととしました。

夫婦池には、以前、キャンプ村や「県民の森」関連施設が設置されていたため、古い空き缶などに混じってドラム缶や便器などの粗大ゴミも放置されており、参加者も驚くほどの量(五〇〇kg)のゴミを回収することができました。

また、剣山でもニホンジカの生息数の急増により、下層植生の消失や樹皮を剥がれた樹木の枯損が目立つようになっており、今回は当署から資材や道具を提供し、見ノ越から西島間の名頃谷山国有林四七林班で、ニホンジカが好むナナカマドやリョウブなどの幹に樹木ガードを設置しました。資材の量も限られていたため、保護した樹木は約六〇本でしたが、ニホンジカ被



夫婦池周辺で収集されたゴミの状況

害は予想よりも深刻で、参加者もこのような取組の必要性を認識されたこととされています。

今回のクリーンハイクには、事務局にあらかじめ参加登録した者は五八名でしたが、当日参加した人もいたため、約一〇〇名が参加し、夫婦池周辺のゴミを含め、六〇五kgのゴミを回収することができました。参加者は、きれいになった登山道周辺や設置した

樹木ガードに満足そうに見入っていましたが、当署としても、今回のクリーンハイクのような国有林周辺でのボランティアな取組に、県や市町村、NPOと連携しながら支援と協力を行い、「開かれた国有林」のPRに努めていきたいと考えています。

親子での

森林教室を実施

〈徳島森林管理署〉

六月七日、徳島市立上八万幼稚園で、園児三二名と保護者を対象とした森林教室（木工クラフト）を行いました。

当署では、前期と後期に分けて公募により森林教室を実施していますが、今回の森林教室は前期分として

選定された七件のうち、その第一回目の森林教室として実施したもので、上八万幼稚園からは「親子でふれあいや一緒に楽しむことができる活動をお願いしたい。」という内容で依頼をうけました。

子供たちは室内から見える

森に目を向けたり、元気な声で返事をするなど真剣に話を聞いていました。また、園児からは、「森とはなんですか?」「どうして動物は森に住んでいるのです

か?」などの質問があり興味津々の様子でした。木工クラフトでは、徳島県産のスギ間伐材を使用した「写真立て」を作りました。木の枝などで作った動物や、ドングリ、松ぼっくりで飾り付けをして、思い思いに「写真立て」を仕上げ、中には小枝を束ねて木の幹に見立てるなど、思いも付かなかった創作もありました。



写真立て（木工クラフト）

り、子供ならではの視点に勉強させられる形となりました。なお、この活動の様子は、地元の徳島新聞にも掲載されました。当署では、森林の公益的機能や木材利用についての理解を深めてもらうため、地域や学校等の要望に応えつつ、今後とも計画的に森林環境教育を実施していきたいと考えています。

「源平屋島の森」で

ボランティア作業

〈香川森林管理事務所〉

五月二七日、香川県高松市屋島国有林の「源平屋島の森」において森林ボランティア作業が行われ、約一三〇名が参加し



下草刈り作業の様子

この行事については、例年下草刈り中心のボランティア作業となっていますが、当所としては地域の要望等を聞く中で、作業内容にも工夫をこらしつつ、郷土の自然豊かな屋敷をフィールドとした国有林のPR

この行事については、例年下草刈り中心のボランティア作業となっていますが、当所としては地域の要望等を聞く中で、作業内容にも工夫をこらしつつ、郷土の自然豊かな屋敷をフィールドとした国有林のPR

屋敷は、瀬戸内海に突き出した溶岩台地で、源平合戦の古戦場として名高い観光地であり、史跡・天然記念物や瀬戸内海国立公園に指定されているとともに、レクリエーションの森の風景林にも指定している貴重な国有財産です。

当日は、県道沿線において、じゅうたんやテレビ、自転車、生活ゴミなど約五〇〇kgを回収したほか、投棄者の特定につながる手掛かりがないかが警察により調べられました。屋敷国有林の不法投棄については、高松市や警察等と連携した撤去活動、摘発により年々減少して



ました。このボランティア作業は、屋島の自然に興味を持ってもらうことを目的に、地元自治会、高松市立屋島東小学校、ボランティア団体等の協力を得て、毎年五月、一二月の三回行う計画としています。

ヌギ等植栽木周辺の下草刈りと、植栽木に巻きついたクズ等のつる切りを行いました。参加した人たちの中には、このボランティア作業に例年参加されている方も多く見られ、五月晴れの暑い中でも、作業は手際よく行われ、約一時間半程度で終わることができました。

5・30(ゴミゼロ)に
関係機関等と連携し
不法投棄パトロール
〈香川森林管理事務所〉

五月三〇日、全国ごみ不法投棄監視ウィーク(三〇日～六月五日)に合わせ、高松市の主催により、当所や関係行政機関、衛生組合協議会、警察等七〇名で編成された「不法投棄者調査パトロール隊」によるパトロールが行われました。

屋敷は、瀬戸内海に突き出した溶岩台地で、源平合戦の古戦場として名高い観光地であり、史跡・天然記念物や瀬戸内海国立公園に指定されているとともに、レクリエーションの森の風景林にも指定している貴重な国有財産です。

来ていますが、摘発件数としては年間五件程度あり、引き続き、日常の巡視や看板設置等による未然防止の取組により、不法投棄をなくすよう保全管理を行っていきます。



警察による調査の様子

県境をまたいで

ニホンジカ食害対策

〈高知中部森林管理署〉

五月二十六日、当署と「三嶺の森をまもるみんなの会」の主催により、高知・徳島の県境「平和丸」と西熊山の中腹「カンカケ」で、ニホンジカ食害防護柵の設置を、平和丸ではラス巻きも行いました。

今回の作業には、徳島県側から徳島森林管理署の職員四人、高知県側から地元の大学生、市会議員、県・市や農協の職員、物部川流域の住民総勢九四名が参加しました。

「平和丸」は、最近ニホンジカの食害が急速に進み、ササの葉が地面から

直接生えているのではな
いかと思われるほど矮小
化しています。また、周
辺のウラジロモミはほと
んど食害されており、枯
木が目立っています。そ
こで、二カ所に防護柵を
張り、生き残っているウ
ラジロモミなどにラス巻
きを行いました。

一方で、「カンカケ」では、
倒木により林内の日照条
件が良くなった場所に防
護柵を設置しました。

今回は初参加の大学生
が多かったため、柵の張
り方や効果を、三年前に
設けた柵の所で確認して
から作業を始めました。
そのおかげで、手際よく
作業を進めることができ
ました。

また、当日は好天に恵
まれ、県境の平和丸から
は、三嶺の頂上や剣山周
辺の山々、別府峡などが
くっきり見えました。そ
こで参加者は、自然を大
切にすることの重要性を
改めて感じたようです。

ニホンジカ食害対策は、
平成一九年度から始まり、
今回で柵の設置箇所は
四〇カ所、ラス巻き本数
は五千本近くにもなりま
した。今後も多くの方と
協力しながら、ニホンジ
カの食害か
ら三嶺の森
を守る活動
を続けてい
きたいと思
います。



ニホンジカ食害防護柵作設中
(平和丸)



ニホンジカ食害防護柵の作設完成記念撮影

